



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

No.531

2016

9

思い出の阿蘇YMCAに再び

「阿蘇YMCAは、自宅から徒歩で10分もかからないところにあるんですよ」と笑顔で話す松村浩市さんは、来年で設立10周年を迎える阿蘇ワイズメンズクラブ(以下、阿蘇クラブ)を初期から支えているメンバーの一人。「自宅が大規模半壊の認定を受けました」と熊本地震の被災状況を振り返る時にも、落ち着いた語り口です。「思い通りにならないのは皆一緒。こういう時こそ冷静にならないと」。

約2割の家屋が倒壊した阿蘇市車帰地区。本震後は住民が公民館に集まり、各家庭の食材を持ち寄って炊き出しが始まるなど、地域の絆の強さが発揮されました。その後、松村さん自身も5月中旬まで公民館で寝泊まりしたそうです。「残り数世帯になった時、“誰かが残されるのは寂しいから”と、皆と一緒に公民館を出たんですよ」。阿蘇YMCAは発災5日後から近隣の被災者にお風呂を開放。「現在住んでいるみなし仮設住宅にはお風呂がなくて、7月中旬までは我が家も含め数家族が借りていました。“温泉どころ阿蘇キャンプ”ってLINEグループを作って“うちはもう終わったよ”“じゃあ、今からうちが”と連絡を取りながらね」。



地域の復興は
できることから!

松村さんにとって阿蘇YMCAは「子どものころに遊んだり、クリスマスパーティーでお菓子をもらったり…」と、楽しい思い出がある場所。「子どもをキャンプなどに参加させ、改めてYMCAと関わるようになって。そんな時、阿蘇の地にワイズメンズクラブを立ち上げようという話が出て、地域住民である私にも誘いがあったんです」。

※ワイズメンズクラブはYMCAの活動を支援することを目的とした、国際的なボランティア団体。熊本県内でも10クラブが活動している。

ワイズメンの一員として地域とともに

お金がなければ、体を動かす!

阿蘇クラブは2007年9月、阿蘇YMCAを拠点に発足しました。「当初はメンバー全員がワイズメンズクラブ初体験。“ワイズとは何ぞや?”というところからのスタートでした」と苦笑い。そのモットーは、「阿蘇クラブにはお金がないので、体を動かす!」と笑います。まずは、阿蘇



阿蘇YMCAの階段を整備

にあるYMCAの保育園の除草作業や夏祭りでの出店から始まり、阿蘇YMCAの施設整備、ながみね祭のサポートなどへと活動の場を広げました。

JA阿蘇の職員を20年以上務め、現在は共済部に勤務する松村さん。阿蘇市、南阿蘇村、西原村などの被害は甚大で大雨時の土砂災害も危惧されます。「阿蘇谷には大きな亀裂が入り、生活用水はもちろん、農業用水路も壊れ、応急措置に留めているところも多い」と農業の現状にも心を痛めています。地震後は数千件におよぶ被災家屋の保険に関する対応をしながら、自宅の片付けに追われました。「妻は障がい者支援施設で働いていますから、地震だからといって休むわけにはいかない。まずはお互い仕事をして…」。

忙しい毎日が続く中、自分にできることはないかという思いを募らせていた6月上旬、阿蘇クラブをはじめとするワイズメンズクラブが中心となって実施した益城町総合運動公園での炊き出しに参加しました。「益城町の被害の様子は聞いていましたから、ずっと気になっていました。私たちの地域では住宅の建設も始まりましたが、益城町では未だ先が見えない状態のように思えて」。被災状況を目の当たりにして、「自分はまだ恵まれている。これからも長く寄り添っていかねければ」と感じたそうです。



阿蘇の復興を目指して

現在、阿蘇YMCAは全国からの支援ボランティアを受け入れる拠点となっています。「地域の被災家屋の解体にも多くの方が来てくれました。作業が遅れていた農家のお手伝いもしてもらって。今後も農作業はあるし、家の建て替えが進めば新たな支援活動が出てくるでしょう」。これからも長期的な支援が必要だという松村さん。「阿蘇の復興のためには、まずは自分たちの生活をきちんと立て直すことが大切」ときっぱり。その上で、できる範囲の活動をしていきたいと考えています。

阿蘇YMCAは今までも毎年感謝会を開いたり、地区のプール清掃を一緒に行ったりと地域とのつながりを大切にしてきました。「地震後にYMCAのお風呂を借りていた人が、今度はYMCAの除草作業に来てくれました。今まで以上にYMCAやワイズメンズクラブと地域の皆さんの関係を深めていきたいですね。私は阿蘇クラブのメンバーになり、多くの人と出逢えたことが自分自身の成長の糧になっています。これからも、いろいろなことを学んでいきますよ」。穏やかな松村さんですが、その目は、しっかりと前を見つめていました。

Pickup

赤水保育園園児
地域のお祭りで
和太鼓を演奏



上手くとれるかな?
永草保育園夏祭り

東部YMCAそうめん流しで
地域交流。建築科と日本語科
の学生がボランティアで活躍



Information 行こう 見よう 深めよう

ユースが語る感動体験 ユースフェスタ

交流
×
学ぶ

この夏、国際青少年平和セミナーやタイ・ユースワークキャンプ、震災復興支援活動等に参加し、様々な経験をしたユースたちが集まり、活動報告をして交わりを深めます。ユースの思いに耳を傾けてみませんか？

日 10月1日(土) 16:30~19:30
場 上通YMCA
内 プログラム報告・交流会
申 TEL 096-352-2344



ユースとシニアが共に未来のYMCAをつくる 第19回 日本YMCA大会

交流
×
経験

日本YMCA大会は、①YMCAミッションと課題の確認、②全国運動の一致と協力、③世界運動への参画、④YMCA間の交流・研修・情報交換を目的に2年に一度開催されます。

今大会では、ユースとシニアが集い、YMCAから社会を変革していくために、よき理解者であるシニアとともに、ユースが自らを勇気づけ、明日への力を備えます。

ユースがバリアを超えて責任ある発言をする勇氣、シニアが愛を持って耳を傾ける姿勢。こうした一人ひとりのチャレンジによって、よりユースが“生きる”コミュニティをYMCAからつくっていきませんか？

日 10月8日(土) 15:00~10日(月・祝) 13:00
場 日本YMCA同盟 国際青少年センター東山荘(静岡県御殿場市東山1052)
内 YMCAに関わるすべての方(会員・講師・ボランティア・ユースボランティア及びOBOG、学生YMCAメンバー及びシニア、専門学校生、留学生、ワイズメンズクラブ、海外YMCAユースなど)
費 28,000円(30歳以下18,000円) ※交通費除く
催 公益財団法人 日本YMCA同盟
開 9月16日(金)
申 各YMCAに設置しております申込書にてお申込みください



楽しみながらチャリティ 秋のYMCA祭

楽しむ
×
チャリティ

今年も、各YMCAでお祭りを開催します。どなたでも来場可能。益金は、熊本地震復興支援、東日本大震災復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等のために用います。

ながみね祭

昨年は約2500名が来場するなど、毎年大賑わいを見せたながみね祭。今年は「熊本へ笑顔を~いまココロひとつに~」をテーマに、皆さんの笑顔あふれるお祭りを目指して準備しています。現在、前売り特典としてお楽しみ抽選番号が付いたチケットを販売中。ぜひお買い求めください。

日 9月17日(土) 16:00~20:00
場 ながみねファミリーYMCA
(熊本市東区長嶺南)
申 TEL 096-385-0676

むさしYMCAフェスタ2016 & むさしマルシェ

「むさしと共に 明日(まえ)に進め」をテーマに掲げ、むさしYMCAフェスタを開催します。毎回好評のマルシェも同時開催。ステージ発表、のみの市、食バザーなど、内容は盛りだくさん。みなさんのご来場をお待ちしています。

日 10月16日(日) 10:00~15:00
場 むさしYMCA(合志市幾久富)
申 TEL 096-248-6334

東部祭

YMCA学院建築科の学生たちの餅つき、日本語科の留学生たちによる国際色溢れる食バザーやステージが毎年大好評の東部祭。多文化理解を楽しみながらチャリティに参加しませんか？

日 10月23日(日) 11:00~14:00
場 東部YMCA(熊本市中央区帯山)
申 TEL 096-382-6661

前進祭

中央YMCAとYMCA学院が行う学生主導のお祭りです。食バザーやゲームコーナーが充実。

広い体育館で家族全員で楽しめます。

日 11月6日(日) 10:30~15:00
場 中央YMCA(熊本市中央区新町)
申 TEL 096-353-6391



R | E | P | O | R | T

被災地に笑顔と勇気を 留学生が災害支援ボランティア

8月1日(月)～8月3日(水)、北九州YMCA日本語学校と熊本YMCA学院日本語科の留学生が、阿蘇YMCAを拠点に熊本地震被災地の支援活動を行いました。3日間でベトナム、ネパール、中国、韓国、スリランカ、台湾出身の留学生のべ40名が参加。グループに分かれて南阿蘇村や阿蘇市内牧では瓦礫撤去作業、益城町総合運動公園では、館内の整備や避難者との交流などを行いました。

参加したベ・ウネさん(韓国出身)は「私が避難していた時、学校の先生やボランティアの皆さんにたくさん助けていただきました。今度は私が人々に笑顔と勇気を与える番だと思い、益城町の避難所でのボランティア活動に参加しました。3カ月を越える避難所生活を送りながらも、前向きに生きる人々の姿を目にして感動しました。皆さん地震に負けないで!私も一緒に頑張ります」とメッセージを寄せてくれました。



世界のユースが平和について考える 国際青少年平和セミナー

8月4日(木)～6日(土)、広島YMCA主催の第38回国際青少年平和セミナーが行われ、アメリカやインド、日本など8カ国から約90名が集まりました。熊本からはYMCA学院の学生1名、大学生1名、引率1名が参加。各国のユースと共に平和について考えました。熊本大学2年生の増本久美子さんは、以下のような感想を寄せてくれました。

「今後、戦争を体験していない人・戦争の話を経験者から聞いたことがない人が戦争のない世界を築く

には、今まで以上の想像力や深い思慮が必要となります。今回、被爆者の方が語ってくださったメッセージを受け止め、これからの世界をつくっていくことが私たち若い世代に託された使命だと感じました。また、国際交流をするには、英語力だけでなく自分の内面を磨き、知識や考えをしっかりと持つことが大切だと思います。平和についてもっと考えを深め、この経験を活かしていきたいです」

グローバル教育事業部 工藤 瑛里菜



熊本復興のためにできること 委員研修会

8月18日(木)、熊本YMCAを支える運営委員を対象に研修会を実施しました。46名が参加し、震災復興に向けて、共に学びを深めました。

YMCA職員の神保勝己さんによる、熊本地震の支援活動報告に続き、日本福音ルーテル大江教会の立野泰博さんが「コミュニティづくりや心の支援こそ、YMCAのできることではないでしょうか」と講演。その後、YMCAの委員やボランティアができること、地域

にとって必要なことをテーマにグループ討議が行われ、「体を動かすプログラムづくりが必要」、「平時から、若いリーダーを育てておくことが大切」などの意見が発表されました。最後に熊本YMCA会長の福島貴志さんが「YMCAの強みは総合力。職員だけではなく、各委員、全国のYMCA、世界のネットワークの力を借りながら復興に向けて歩んでいきたい」と締めくくりました。



総主事の タラント Vol.29



輝く、みらい

リオ・オリンピックの選手たちの輝きに、誰もが感動したことでしょう。2020年の東京オリンピックへの希望と期待が膨らんだのではないのでしょうか。私自身もスポーツに夢中になった時期があります。華やかな活躍の裏には、努力と葛藤、様々な鍛錬の積み重ねがあります。「好きこそ物の上手なれ」と言いますが、幼いころから夢を持って一心不乱に打ち込み、憧れの選手や明確な目標ができ、周りの人に感謝する気持ちを持つからこそ、偉業はなしえるのです。これが、競技の勝敗だけではなく、多くの

人々に歓喜と感動をもたらすスポーツの素晴らしさです。

この夏も多くの子どもたちがYMCAのキャンプやプログラムを通して感動体験をしました。熊本地震の影響もあり、当初予定の通りとは行きませんでした。神戸YMCAの協力を得て行った富士山や四万十川でのキャンプ、カトリック宇部教会神父の片柳弘史さんにご協力いただいで実施したあそぼうキャンプなど、熊本地震で心に傷を負った子どもたちの心のケアにつながるものでした。それは、先人たちが築き上げてきた実績と信頼のもと、YMCAのスピリットを継承しながら、時代の変化や状況に適応し、具現化してきたものだという自負があります。

それとは裏腹に、「YMCAのイメージは?」という問いに対して『名前を知っているが、何をしているかわからない』『内向きで、素朴』と感じている人が多いことが、全国のYMCAで実

施された調査で明らかになりました。YMCAブランドは見えにくく、存在も希薄になっているようです。先日、YMCAブランディングの土台となる「ブランドコンセプト」が以下のように発表されました。

「私たち日本のYMCAは「したい何かが見つかり、誰かとつながる。私が高くなる、かけがえない場所」を提供し、「互いを認め合い、高め合う『ポジティブネット』のある豊かな社会を創る」ことを目標とする、「心をひらき、わかち合う。前向きで、まわりを惹きつける魅力を持つ」ブランドです”

2020年には、日本のYMCAがキャンプを開始して100年を迎えます。ブランドコンセプトに基づいて、キャンプをはじめ、様々なYMCAのプログラムの再構築を進めていきます。子どもたちがオリンピックの選手たちに負けないほどに生き生きと輝き、YMCAが憧れの存在となれることを目指します。

t a l a n t o n

